

# 二葉

平成2年2月1日発行

諏訪二葉高等学校同窓会

東京支部編集委員会

## 東京支部のあゆみ

題字 今井綾子書(高女28回)

### 「東京支部のあゆみ」発行に当って

東京支部長 青木 武子(高女36回)

東京支部、又その近在にお住いの諏訪二葉高校同窓会の皆様お元気でいらっしやいますか、お伺い申し上げます。私が皆様はこの紙面で御挨拶出来ますことは「東京支部のあゆみ」発行の運びとなりましてからこそと、今感慨に浸っております。諏訪二葉の偉大な先生方の御薫陶を受けた同窓生が勉学に、又家庭に、学究に、仕事にと、志を抱いて上京され、大先輩の方々は今、悠悠自適の人生を、若い方々は頭張りの人生真最中にいらっしやることでしょうか。私が御縁あってと申し上げますか、巡り合せて支部長をお受けしました。支部活動は、年度の終局である総会に向って、役員会幹事会と組織が確立しており、小さな問題はあっても自然に流れて参ります。

然しふと振り返る時、先輩の方々が僅かな資金で支部を設立、会則作成、支部長役員を選出と、大変な努力をされた事を想い、敬服し強い感動を覚えます。又先生方のお力

添え大なるものがございます。私が支部長になって半年、激動の昭和は六十余年の幕を閉じ、平成の新時代に第一歩を踏み出しました。先輩の中には戦中の東京、空襲で罹災された方と忘れ得ぬ想い出の昭和であったことでしょう。そして戦後の世の中が落着く間もなく、大先輩の熱意ある方々と先生方の御援助によって昭和二五年、支部再結成大会が開かれ、お蔭をもちまして今日の確固たる



平成元年度役員紹介

東京支部が存在しております。

毎年の支部総会出席者数は、

近年二百数十人を下回ったことはありません。同級生まさに誘い合わせて総会に出席するといふ、素晴らしい総会は他に例を見ないのではないでしょうか。旧交を温めつゝ、良い講演をききたいと、向学の心も忘れぬ。これが諏訪二葉の高邁な教育を受けた同窓生の見事さだと感激致しています。この誇りと責任に、歴

代の支部長は誠心誠意を尽され、又役員の方々が補佐された御様子が古いノートでよく分り、胸に沁みます。支部は会合の場所一つにも活動するには資金が要ります。無から出発された時の御苦労は計り知れません。当時の数千円は大変な額ですが、御寄付下さった支部長はじめ先輩の方々、資金を少しでも残し、支部の発展を願われ、役員会も自宅を提供されました。十四代支部長である私は唯々感謝で一杯でございます。この立派に育ち、誇りとすべき皆様の維持費によって支えられている東京支部の沿革を、今こそ知って頂きたい。総会の模様も出席者多数といっても、他の大部分の方は接して頂け

ないのでは是非掲載したい。学年のお声もと、会報の形式となった次第です。東京支部の対象は、東京及びその近県に居られる二葉の同窓生ということになります。東京支部の名簿に足しますと四一七三人。この会報で、東京支部の存在を一人でも多く知って欲しいと念じつゝ、皆様への感謝と、支部発展の願いを込めて作成致しました。命名は三井先生から「会報二号をと声があると支部長は続かないよ」とご忠告。先生のお知恵も戴き「東京支部のあゆみ」となりました。本報から会長、校長先生のご寄稿、ご援助厚くお礼申し上げます。

平成元年度総会予定

日時 平成二年六月十六日(土) 午前10時～3時

会場 日本青年館4F 東洋軒

新宿区霞ヶ岳町15

TEL 〇三(四七五)二五五二

議事 講演会

講師 未定

昼食パーティー

会費 四千元

# 「二葉東京支部の歩み」発行に寄せて

同窓会会長 小口 友 (高女34回)

東京支部のみならず、お褒りもございませんでした。昨年の東京支部総会では、先生方、大勢の会員のみなさまにお目もじ叶い、本部を凌ぐほどの壮な支部総会を目的に当りにして、うれしくも又頼もしい限りでございました。旧ろうこちらでは師走に入りましても穏やかな日和続きで、冬仕度に心せかれます。日も暖かな陽ざしの中ですが、冬が過ぎました。けれども、さすに今は厳しいたがずまいとなりました。諏訪湖を囲む山々、わけても私達の

この度は東京支部の歩みのご発刊、本当におめでとうございます。この支部の歩みが東京支部の生い立ちを伝え、会務の連絡を果たすのは勿論、会員ご研鑽の発表の場であり、思いの丈を綴り合うという、横に縦に支部会員を結ぶよすがとなること必至でございます。しょう。

今日は外には小雪舞い、内には、静かに時間の流れる温かな窓辺に「東京支部の歩み」への原稿用紙を拵けております。そしてこの安らかさと豊かさの中に身を置く幸せをしみじみと思っております。

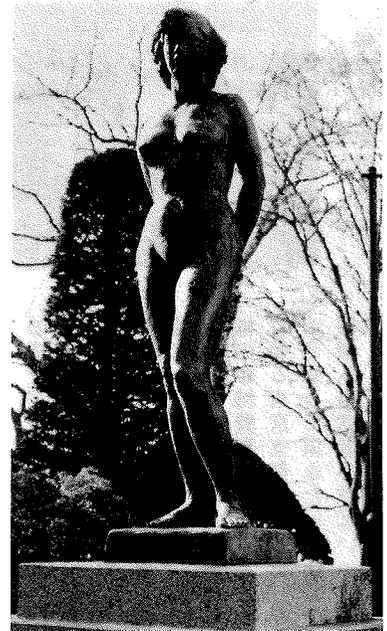
慌しく日々を送って居ると冬を感じて、改めて秋が去った想いにさせられる。人間がますます自然に逆らう生活を強いられるのに比べ、植物は正直に、四季に寄りそっている。学校のモミジは、未だ紅葉をつけているし、ヤツデの花が咲き、ミツマタ・コブシ・モクレンも、産毛でおおわれた蕾をつけた。アララギ・五



宮坂副会長  
小口会長  
小林校長先生  
小口先生  
寺沢先生  
池上先生

青木支部長様、役員のみならず、皆さまのお骨折りがあつたればこそ、その快挙に深く敬意を表し、東京支部の一層のご発展をはるかに祈りいたします。

祝二葉東京支部歩発刊  
一葉東京支部の歩み発刊を祝す  
三秋有信首刊催



## 会報発行を祝す

学校長 小林 仁

春序一封方見魁  
部友二千青眼在  
玉篇郁都勝簪梅  
(読み下し)  
三秋信有りて首刊催すと  
春序の一封方に魁を見る  
部友二千青眼在りて  
玉篇は郁都勝簪梅に勝らん

葉松・ツツジに囲まれて「すこやか」像が立っている。この像は、東京支部と関係が深い。昭和二十八年の支部総会の折、清水多嘉示先生に話がもちかけられた。建設費二十五万円のうち、十万円を東京支部が負担した。昭和三十年五月、盛大に除幕式が行われたとき、平林たい子が活躍していた頃のことだ。三十数年の星霜をへて、像も周囲の樹木としっかりと調和し、美しいシンボルとして健在である。このように、格別縁の深い支部が、独自の会報を出すのと、心からお喜び申しあげます。失うものが多い時代。同窓会も学校も、無くしたくないものを大切に伝えて心の

## 会員の住所変更の際はお知らせを

住所の移動、変更、訂正のある方は氏名・卒業回数・〒住所・電話番号を明記の上、必ず東京支部及び本部にご連絡下さい。

東京支部

〒202 保谷市新町五十一一七  
青木 武子

諏訪本部同窓会事務局  
〒042-2155-4876

諏訪市岡村二十三一二八  
〒026-6152-4628

## 共学風景



より所でありたい。

# 支部を支えて下さった

## 諸先生

東京支部が誕生するに当って、当初、海沼先生、宮先生、三井（為友）先生、篠原先生の各先生方の、ひと方ならぬご支援があつて、現在の発展を見る事が出来ました。伝統ある二葉高校同様、誇り高い東京支部の灯を永遠に。

## 戦後支部 再建のころ

三井 為友

私が二葉高校（当時は諏訪高女）の教師をしていたのは昭和十五年（一九四〇）五月から十七年三月までの短期間である。だから同窓会の東京支部なるものがあること、海沼大陸先生という旧職員が主催して居られることは耳にしたことがある。

諏訪を去って東京へ来て、やはり二年程で、赤紙召集をうけ出征した。この間、同窓会東京支部が開かれたか記憶にない。生還して、昭和二十二年（一九四七）四月から、もとの勤先、東京第二師範学校女子部の教壇に立っていた。戦後の学制改革で大騒ぎで、師範も大学に昇格するなど、ごたごたしているところへ、

私の在職当時の大森栄校長と千葉正志教頭のお二人が、東大農学部前にあつた私の学校へ訪ねて来られた。たしかその時は、大森先生は他校に転じられて、千葉先生が校長だったのではないかと思う。ともかく四十年前のことは、極めてもうろうとしていた。

両先生の私への頼みは、二葉同窓会東京支部の再建であつた。「私がやらなくては駄目なのですか」と繰り返しかえしたように思う。

そしてやむなく、妻や在京の教え子たちのつてをたよつて、私の勤めている学校を会場にして、再建第一回を開いたのが昭和二十五年のことのように思う。旧職員をはじめ海沼先生はもちろんのこと、予想外に多数出席してくれて大変盛会であつた。幸い、歌人の横山芳枝さん

（六期）が支部長を引きうけてくれ、各学年に幹事をおくことにして、支部は発足したわけである。幹事廻り持ち制のほか、支部長の任期などきめなかつたように思う。

海沼先生は、先生と私とが相談役または顧問にならなければ続かないだろうと言われたが、私はその必要なしと言つた。しかし、先生の長年の経験を重んじて、そうなつてしまつた。

## 東京支部 に寄せて

篠原 一雄

二葉高校は今や創立八十二年を迎え、古きよき伝統の下卒業生も一万余千、生々発展の一途を邁進している事はまことに心強い限りである。

私は昭和十三年から四十三年迄の三十年間奉職していたので同窓会とかかわりも甚だ深いものがある。

昭和二十三年新制二葉高校の発足以後各地に支部が設立されるようになったが、東京支部の復活結成は昭和二十五年一月十一日、学芸大学追分分校での大会であつた。私は千葉正志校長と共に勇躍して

出席したが会場には沢山の会員有志の方々、そして海沼、三井両先生も出席され、和気藹々の中で初代支部長に横山芳枝さん（高女六回）が選出された。横山さんは当時書道の先生もされておると伺つていたが大変達筆の手紙を何度も戴いて種々相談を受けた記憶がある。また海沼大陸先生からも丁寧なお便りを時々戴き、会の為に献身的に助言指導をいただいた事を承知して感銘を深うした事だつた。

私は現役時代には殆んど毎年総会には出席していたのでなつかしさ一杯である。昨年久々で恐る恐る？出席したが大変和やかな雰囲気の中で多くの方々のお笑顔を目の辺りにし、また逞しい二葉魂にふれ得たことを真に嬉しく心強く思つた次第である。

同じ屋根の下で共に青春を過ごした人達には何物にも負けない強固な連帯感があるであろう。願わくは益々一致団結して世の木鐸となつていただきたい。「魂の永久のふるさと」二葉高校卒業生の誇りを高く持ってお互いに切磋琢磨されんことを心から祈つて已まない。

## 海沼先生を偲んで

海沼先生の御協力無くしては東京支部は存続し得なかつたのではないだろうか。支部事務局とも言える引継ぎノートはインキの色は褪せながら先生が要点をきちつと、明確に纏めて下さつて居る。支部を愛して止まないお気持が各所に溢れ、胸が熱くなる。

「東京支部のあゆみ」を御覧になつたら、お喜びになつたらうか、それとも失望になつたかも知れない。いずれにせよ御覧頂けないこと只々残念でならない。

先生は平成元年一月三十一日御逝去された。心不全とのこと享年九十才と伺つた。

お通夜、御葬儀ともに堀之内祭場。歴代支部長にお知らせし、お通夜は副支部長河西八重と青木、御葬儀（二月四日）、副清水保子と青木が参列。支部から御香典と役員一同から生花をお供えし、支部を愛して下さつた先生の御冥福をお祈りした。

海沼先生、東京支部は紆余曲折は有りました。が、あゆみ続けて参ります。

（支部長 青木武子記）

風なくに、揺る、

ぼたんの、花重し

(宮先生遺作)

平成元年五月二十一日、新緑に萌える、千駄ヶ谷の森の日本青年館4Fの東洋軒に於て、同窓会総会が開催されました。広間正面に立てられた金屏風が、シャンデリアの光に輝き、

演題を書いた大きな字幕と、真紅のバラが映えた、綺麗な会場でした。ロビーには、早くから、大勢の方が集まり、挨拶を交す人、入場を今や遅しと、待ちわびる姿が目につきました。来賓の方。同窓生の皆様。260名の多数のご出席を頂き、十時開会、校歌斉唱、青木支部長のご挨拶と、プログラムはスムーズに進行し、

支部長の一番心配されて居る「終身会費移行と、東京支部の維持費について」の説明がありました。本部終身会費の振替用紙の発送が、九月末から始まる事の説明と、其のあとの、支部の維持費が未納にならないよう、皆様に、ご理解頂き、永年継続出来ました東京支部を、今後も存続発展させるよう、是非とも、ご協力を頂きたい事をお願いし、諸物価上昇を見込んで、平成二年度からの維持費を、今迄

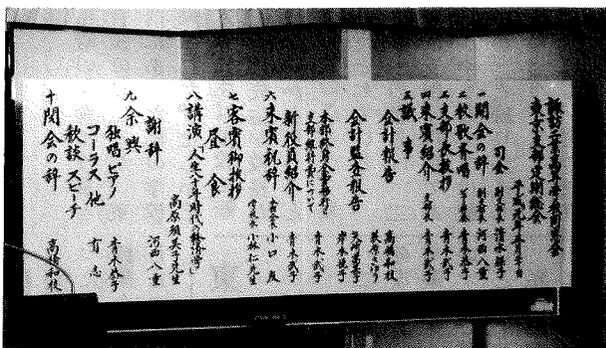
通り千円を、ご納得、ご承認頂きました。多数の会員の方々に、支部を支えて頂けますよう、ご協力お願いします。会計報告。会計監査の承認報告。郵便振替の振込み方法の告。郵便振替の振込み方法の告。郵便振替の報告。新役員

の紹介。分刻みの進行。本部

の紹介。分刻みの進行。本部 三分間のスピーチを頂き、元気なお声を聞く事が出来ました。講演は、経済評論家、高原須美子先生の「人生八十年時代の経済学」でした。紅茶で緊張をほぐして頂き、余興の合唱。高女36回生が野村先生と一緒に「ケンタッキーホーム」のコーラス。藤森美恵子様(高女34)の独唱「愛のよろこび」ピアノ伴奏の青木恭子様(高校

# 総会報告 (昭和63年度)

副支部長 清水 保子 (高女38回)



小口会長のご祝詞。終身会費 3)と「エーデルワイス」の三千円納入について、秋より実施する旨説明があり、同窓会発展の為の、協力依頼がありました。又、伝統ある二葉高校の素晴らしさについて、小林仁学校長のご祝詞。続いて客員の寺沢先生のご挨拶。

の大会唱を最後に閉会。楽しい一日でした。

## 昭和63年度決算報告書

(63.5.1 ~ 1.4.30)

収入の部			支出の部			
項目	金額	備考	項目	金額	備考	
1 前年度繰越金	1,030,672		1 総会関係	① 東洋軒支払食事代	879,950	パーティー飲物、其の他
2 63年度維持費納入額	1,223,700	1,000×1,212・500×16		② 東洋軒支払会場代	143,565	席料奉仕料、其の他
3 63年度総会会費	852,000	4,000×213		③ 講師謝礼	50,000	茅野和先生(車代共)
4 雑収入総会関係	45,000			④ 雑費	99,480	決算報告書、其の他
5 名簿売上		外に名簿基金として定期預金 620,000	2 本部納入維持費	361,400	300×1,204送料含む	
6 預金利子	15,775		3 二葉高校グランド完成祝	20,800	祝い金 10,000 交通費 10,800	
			4 弔慰金	50,952	13人 送料含む	
			5 名簿基金	24,538		
			6 支部長及役員通信費	30,000	支部長 他7名	
			7 支部長及役員交通費	17,600	支部長 他7名	
			8 役員会及幹事会	529,460	会場費 通信費 其の他 役員会7回 幹事会4回	
			9 預り金	4,000		
			10 次年度繰越金	1,013,502		
合計	3,225,247		合計	3,225,247		

## 四代の御代に 生きる私達

(高女15回) 横田美樹子  
大島すみゑ

二葉は巨木と成り大東京に根を張り同窓の人々の憩の場となりました。高女十五回生は明治三十九年・四十年生れです。戦前子供の手を引いて日本橋白木屋にて催された総会の写真はボケて今は昔語りとなりました。疎開先より早く帰って同窓会を開きますと大河内先生に約束して帰ったものの、知人は何処に? それでも支部長に横山様(六回生)を載き、横田様と相談の上お金も無い事から東洋軒の先代金子信雄様におすがりし、二人で足を棒にして冷汗をかき乍ら頭を下げて歩いた事もありました。



## マイオールドケン タツキーホーム

(高女36回) 吉野純子

平成元年五月の支部総会で、級出席者十六名は、野村とも先生と饗庭照恵先生を中心に四十八年前の女学校二年生に戻り、野村先生に習った表題の歌を合唱しました。戦争で英語学習中断の私達には唯一の英語の歌であり、あの石垣上の音楽室・講堂・作法室・家事を痛感します。先生は九十才のご高齢の現在も、読売歌壇の選者として活躍なされて居られます事は私共の誇りと思ひ、よりご壮健を祈り手を合わせています。会の増々のご発展を希う次第です。

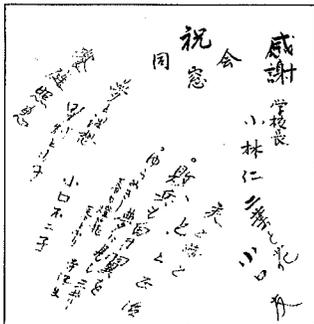
63年度総会

## ご出席の客員・先生

諏訪からもお越し頂き、総会は初めて、又久々の先生方に多数お目にかかる事が出来、一同大喜びでございました。

小口 仁校長先生  
友同窓会長  
宮坂須磨子副会長  
寺沢 新一先生  
三井 為友先生  
小口不二子先生  
池上 正治先生  
野村 トモ先生  
饗庭 照恵先生  
近田 ユキ先生

左の色紙は記念にと書いて載いたものです。



## 最年少?!

(高校21回) 木ノ内由美子

二葉を巣立って早二十年、熟年と呼ばれる年頃になりました。しかし東京支部では総会・幹事会など常に最年少で妙な気分です。同期の皆様はそろそろ時間的余裕もあると思ひますが、致らない幹事の為学年活動は一度もしていません。お許しを。

本年の総会には内田(上条)志づ子様、羽生田(宮尾)節子様と私三名が出席し、今野

(林) 真理子様、金森(小池)ひろ子様より欠席乍らもご連絡をいただき、旧交を暖めました。来年はより多くの出席を期待しております。

## 維持費についての おねがい

既に述べましたが本年度末で維持費千円の内訳は本部へ三百円、支部七百円。本部は終身会費となり三千円を皆様納めて頂いたと存じます。

東京支部は役員会・幹事会を経て総会という組織ですが、諸般の事情により平成二年度から支部維持費は、年千円とすること前総会で承認頂きました。宣しくお願い致します。

## 維持費振込先

年額 1,000円

口座番号 東京5-2043

名称 諏訪二葉高校同窓会東京支部

- 郵便振替口座を作りました。通常は学年幹事がまとめて集めますが個人で納入する方ご利用下さい。
- 振込人住所・氏名・高女又は高校の卒業回数を必ずご記入下さい。
- 振込控を領収書と致します。
- 払込手数料1,000円に付30円

問い合わせ先 会計 矢部喜久子 03(369)1442  
小林しげ子 044(411)0896

## 講演会

# 人生八十年時代の 経済学

経済企画庁長官

高原須美子 先生  
(経済評論家)

私の伯父が茅野病院の院長だった関係で、戦時中諏訪に疎開し、城南小学校に通っておりました。そこで諏訪二葉高校の同窓会と言うお話に喜んでやってまいりました。私は経済が専門でして、多少脱線してNHKなどで政治についても発言しておりますが、今日は専門の経済のお話をしたいと思います。

最近人生80年時代がやってきたとよく言われますね。人生50年になったのは戦後のことで、それからあっといいう間に80年時代がやってきたわけです。経済も暮らし方も変えないと50年をただゴム紐のようにビュッと伸ばして暮らした

んでは、せっかく延びた寿命が役に立たないと思うんです。プラスした30年を充実して生きてこそ初めて人生80年時代が生きて来るのではないのでしょうか？そこで今日はそれに相応しい暮らしぶり、相応しい経済とはどう言うものかということをお話させて載します。

経済なんていうと、私達の暮らしから離れた遠い処にあるような気が致しますが、私達の暮らしが集まって経済が成り立っていると言うことで深い関わりがあります。暮らしと経済の側面は家計です。この家計の成り立ちを見てみますと、まず家計には収入があります。サラリーマン所帯の方は良くわかりだと思えますが所得税、住民税、厚生年金、保険料といったものが天引きされます。こうした消費に使えない部分を非消費支出、天引きされた残りの手取り収入のことを可処分所得と言います。この可処分所得を皆さん毎日処分なさる、つまり大半は消費に回し一部は貯蓄にと、消費と貯蓄から成り立っている訳です。

今この家計の構造に合わせ人生80年時代の舵取りが始まっています。まず直接税から間接税へという動きは皆さん方四月から消費税を払っていますね。この消費税はやはり人生80年時代に合わせ登場してきたのです。このことを家計を通して見ますと、非消費支出が昭和40年代終わりの高度成長期には、給料の8%位しか天引きされていなかったのが、61年には16・2%という高さになりました。今までの税制で行きますと、これがどんどん上ってしまい、あと10年たつと20%、30年たつと30%を超えるということになってしまいます。この負担が皆さん方、特にサラリーマン世帯では重税だと感じると思います。それで少し間接税に重みを移そうではないか、移したらどうか？という事が国の消費税の導入になって出てきました。

これは汗水流して働いた所得からガッポリ取られるのではなく、消費の部分で負担するわけです。消費というのは生活が便利になるんだし、楽しみの部分もあるもので今までより少しこちらに税のウェイトを移したらという動きなのです。

高齢者が増えているって医療費とか厚生年金、国民年金といった社会保障費が増える事によって、天引き部分の負担が増えていかざるを得ない、これがまさに80年時代だからなのです。国民所得の中で社会保障費の占める割合を国民負担率と言いますが、日本では平成元年度の予算で39%。イギリス、西ドイツ、フランスはもう50%を超えています。日本は未だ高齢化の割合が11%位ですが、一番高齢化の進んだスウェーデンはもう17%を超え、国民負担率も70%にもなっています。高齢化が進むとどうしても社会保障費が増え、国民負担率も増えていかざるを得ません。平成元年度の予算を見ても三分の一が社会保障費なのです。昭和45年は24%位だったのが39%にもなってきたわけです。

高齢化のスピードが増々早くなり負担率も段々高くなる、そこで直接税から間接税に重みを移そうというわけです。所得税の方は減税をして負担が軽くなってきています。ですから消費税については色々反対もありますし、手直しは反対も思いますが人生80年時代に相応しいと言うか、やむを得ない動きであると思いま

すね。

総理府の国民生活に関する世論調査によりますと、これから充実させたい生活分野の断然トップは、レジャー、余暇なんです。昭和53年をみると63年の消費生活は115100と、いうことで10年間の物価上昇分を差引き正味15%レベルアップしています。そして教養娯楽費が30%増加し、消費は量から質へと舵取りを始めています。これは電化製品などはほぼ100%普及したというのが第一の理由です。第二の理由はやはり人生80年社会だと思えます。いくら洋服や電気製品が十分揃っても本当には満足しませんね。あとの加わった人生の30年を充実して生きるために、どうしても余暇、レジャーを充実させておかないとやって行けないと言うことです。女性の方は寿命が長くなってきた事を自覚しこの30年を考えています。男性は仕事で趣味もなく家事も駄目では困るので、定年後の男性にも是非この質的充実をということなのです。

私は今、エイジレス社会と言う言葉を提言しています。これは総務庁の審議会に出て

きた言葉で和製英語のようですが、アメリカにも本当にエイジレスという言葉があつて、その方面の本も出ています。年を取らないとか年を感じさせないと言ふ意味です。老化的なと言ふことなのです。それではどうしたら老化的な言ふことかです。脳の老化についての研究で知られる東北大学の松沢先生のお話ですと脳を老化させる一つは糖尿病、動脈硬化といった成人病、次は煙草の吸い過ぎ、三つ目のこれが一番重要で、それは「無為」何もしないと言ふことが一番老化を進めると言われています。エイジレスになるためには「無為」は駄目なのです。人生80年時代の家計・暮らしの運営はこの質的充実というのが大事なのです。

今は第二いざなぎ景氣と言われています。これはベースアップもあつて、車などの買い換え需要が増え景氣を支えました。61年からの経済の中で教養娯楽費が増えて、スポーツが盛んになり海外旅行も増えました。趣味創作なんていう分野も売れて、まさに質的充実が又経済を支えてきました。その為には男性を中心

とした企業人間・働き蜂にも休みを増し、自由時間を楽しむ事が必要になって来ます。そこで今年の春闘でもベースアップと合わせて時間短縮と言ふ要求が出ています。日本人は欧米に比べ二カ月も余分に働いています。そこで働き過ぎという批判も出て来ると言ふ「濡れ落ち葉」になってしま

に波及して、全体では八兆円以上国の経済の規模が大きくなる計算です。つまり労働時間を減らし消費を増やし、経済を大きくしていくというのが人生80年時代の生き方ではないかと思ひます。ですから皆さん方も物を買う事も大事ですが、一方で質的充実の方

に家計のウエイトを移して行くことが大事になってくると思ひます。三つ目は、現在の生活は程々にして置き将来の生活安定にウエイトを移して行くこと、これが大事になってくると思ひます。三つ目は、現在の生活は程々にして置き将来の生活安定にウエイトを移して行くこと、これが大事になってくると思ひます。

まあ満足しているから将来にウエイトを移すと言ふのが理由の一つでしょうが、やはり人生80年時代があつて将来を眺めると大変不安なのです。そこで私達は貯蓄に一生懸命になるのです。貯蓄の割合が数年前までは20%位だったのが、63年には24%を超えました。



うこともあつて、どうしても労働時間の短縮が必要になって来るわけです。それには完全週休二日制と長期休暇の実施です。最近では経営者の方も遊び人間を大事にするようになりまし

た。労働者の計算に比べて、労働時間を千800時間にする

と民間消費支出が4兆5千億位増えるんです。それが又リゾートを作るなどの設備投資を増やすという事で、これも現在の生活にまあ満足しているから将来にウエイトを移すと言ふのが理由の一つでしょうが、やはり人生80年時代があつて将来を眺めると大変不安なのです。そこで私達は貯蓄に一生懸命になるのです。貯蓄の割合が数年前までは20%位だったのが、63年には24%を超えました。

貯蓄の目的の第一位は病氣や災害による不時の備えで変わりませんが、二位が一昨年の子供の教育費から老後の生活費に変わりました。老後の生活費を蓄えるということになると、貯蓄目標額がどうしても高くなりますね。先程の世論調査によると、その目標額は二三〇〇万円なのです。これは高いと思ひますが、あながち根拠の無いことではありませんが、老後の資金が年金だけではどうしても二〇〇〇万円位たりないのです。皆さん老後の生活費というのはいかにかかると思ひますか。家計調査報告でみますと、定年後60才以上の家庭の生活費は、月二三・八万円の間、二と二八五万円必要になります。60才で定年になった男性が平均余命20年間を二八〇万円

うこともあつて、どうしても労働時間の短縮が必要になって来るわけです。それには完全週休二日制と長期休暇の実施です。最近では経営者の方も遊び人間を大事にするようになりまし

た。労働者の計算に比べて、労働時間を千800時間にすると民間消費支出が4兆5千億位増えるんです。それが又リゾートを作るなどの設備投資を増やすという事で、これも現在の生活にまあ満足しているから将来にウエイトを移すと言ふのが理由の一つでしょうが、やはり人生80年時代があつて将来を眺めると大変不安なのです。そこで私達は貯蓄に一生懸命になるのです。貯蓄の割合が数年前までは20%位だったのが、63年には24%を超えました。

貯蓄の目的の第一位は病氣や災害による不時の備えで変わりませんが、二位が一昨年の子供の教育費から老後の生活費に変わりました。老後の生活費を蓄えるということになると、貯蓄目標額がどうしても高くなりますね。先程の世論調査によると、その目標額は二三〇〇万円なのです。これは高いと思ひますが、あながち根拠の無いことではありませんが、老後の資金が年金だけではどうしても二〇〇〇万円位たりないのです。皆さん老後の生活費というのはいかにかかると思ひますか。家計調査報告でみますと、定年後60才以上の家庭の生活費は、月二三・八万円の間、二と二八五万円必要になります。60才で定年になった男性が平均余命20年間を二八〇万円

暮らし、奥さんが七年前未亡人暮らしとする、未亡人はつましく七割で暮らせば月一六・七万円の間、二〇〇万円位になります。この合計が七一〇〇万円以上となります。これに対し国の年金は、63年度の金額で計算すると、60才から64才までの5年間は年間一八五万円、65才から基礎年金に厚生年金を乗せて一九

三万円もらえます。そして奥さんが65才になるとその基礎年金が出て二二四万円位になります。ご主人が亡くなると遺族年金と妻の基礎年金で一三六万円もらえますが、ここで既に必要生活費二〇〇万円に對して足りないのは一目瞭然です。結局もらえる年金の合計は五一〇〇万円ですから、先程の生活費との差は二〇〇〇万円となって、二三〇〇万円位の貯蓄が欲しいという事になるのだと思います。

年金は最低保証しかありませんからあとは自助努力で用意しなければならぬということです。

私達の貯蓄は金融機関が運用して、企業の設備投資とか国債を買って下水道や道路等の社会資本に回し利子を生み、それが私達の所に戻って来るわけです。貯蓄がなければ設備投資も社会資本の充実も出来ないことになり、日本経済にとってかえってマイナスになってしまいます。

貯蓄ばかりでは困りますがやはり必要な事で、安心して貯蓄に励んで載けたら、この人生80年時代を充実して生きられるのではないかと思います。

高齢化と言うと何か暗いイメージで、将来年金はパンクし寝たきり老人が増えるという感じなので、今日はあえて人生80年時代と言う言葉を使いました。

いまやエイジレスの時代、年をとらない、寝たきりにもならないで、人生80年を前向きに乗り切っていくことが大事だと思えます。そして年金はパンクさせないで最低保証という事で、後は自助努力でやる。そうすれば私はエイジレス社会がやって来るのではないかと思うのです。

何時までも若々しく生きるために、この人生80年時代の経済学を参考にさせていただけたらと思います。

★ ★ ★

前年度書記中島美恵子さんの講録を元にまとめました。難しい経済の話、時にはユーモアやご自分の生活体験を交えながら、テンポのあるお話ぶりでした。紙上ではその全部と雰囲気を残しながらお伝えできません。高原先生はその後、八月に経済企画庁長官となり日本の中枢でご活躍中です。

## 「婦人公論」に掲載された

### 活躍する高校六回生

特別寄稿

思春の丘

(二木葉子)  
増田 茂子

右より

童話作家

楠 蒼子さん

国立音楽大学助教授

兄玉 幸子さん

作家

二木 葉子さん

東京大学原子核研究所

理学博士

名越智恵子さん

IKATギャラリー経営者

柳 清子さん

写真は「婦人公論」のご厚意により転載させて頂きました。



よき師よき友。当時の二葉の校風には、高度の文芸的気品というものがあつた。

放課後の音楽室から兄玉さんのピアノコンチェルトが流れて、そう、髪の毛の長い文学少女の楠さんは図書室の住人でもナリザの微笑が印象的だった。ミス二葉の清子ちゃん、いつもアツケラカン笑顔で数学に強かつた。キューリー夫人のように生きたいと名越さんが孤独な瞳に決意の色を見せて語つた。演劇部の私は、文化祭の出し物イブセンの「人形の家」のノラのセリフを夕映えの空を見上げて暗記していた。校庭のトラックを陸上部のぶんちゃん走っていた。その松沢文子さんは、現在俳壇で活躍している。限りなく懐かしいそれら心の原風景は、セピア色に変色してはいない。時に生き生きと甦り、今でも私をリフレッシュさせてくれる。

婦人公論のデスクから、作家二木葉子をグラビアで扱いたいと依頼があつた。作曲家諸氏に囲まれた紅一点の企

画であつたが、私としては二葉の友を紹介したい気持ちの方が強く、それを押し切つた。同窓会名簿を指でなぞり、東京で活躍している旧友に電話をかけた。数十年ぶりの声。東京支部、同期の全員に登場してほしいのが、私の本意であつたが、デスクから四名と限定されてしまつた。その掲載誌を私は母校へ送付した。

それが機縁になり、ピアノ連弾の世界的權威の兄玉教授ご夫妻、そして物理学の学研をきわめている名越さん、ご両者の母校における演奏、講演につながる事が嬉しくてならない。優れた先輩から後輩たちが受けた感銘は、よりよき意識への発芽をうながすことだろう。きっと。

人に道あり。あの大根坂を共に登つた仲間、ひとりひとり確かな人生を歩んでいると信じられる。素晴らしい精神財産。母校二葉！「白樺の木梢さやめき……」皆さんいっしょに歌いましょう。

# 東京支部沿革

(注) 敬称略

／線は総会日を以って交替

年号	支部長	総会期日 # 場所	出席者数	演題・講師	参 考 記 録
大正		T. 12. 5 山田ちま宅 牛込余丁町	人 8		東京支部揺籃時代。徐々に形態を整える。母校本部より臨席を仰ぐ。日比谷松本楼、日本橋白木屋等を会場とする。
昭和		S. 18. 5		万葉に於ける信州女性の歌 土屋 文明	大太平洋戦争により、昭和18年5月の総会を最後に支部活動を一時停止する。昭和20年5月東京大空襲により、名簿、記録総て焼失。
	横山 芳枝 6回卒	S. 25. 4 片倉ビル	75	島木赤彦先生 笹岡 末吉	1月16日、学芸大追分分校に於て、東京支部再結成大会開く。千葉校長、海沼、篠原、三井諸先生の出席を載く。出席者45名。
	"	S. 26. 5 片倉ビル	110	支那の民情 両角 誠吉	支部名簿作製の計画始まる。7月
	"	S. 27. 5 片倉ビル	164	山野千枝子	支部名簿刊行 5月 ¥60(広告有・有料)
	横山 / 片倉	S. 28. 5 片倉ビル	163		
	片倉 かず 8回卒	S. 29. 5	159	平林たい子	歌と語り 小鳩くるみ
	"	S. 30. 5 日本青年会館	152	岡村 二一	母校ブロンズ像除幕式
	片倉 / 竹内	S. 31. 5 日本青年会館	157		母校創立50周年記念図書館建設資金として、当支部は¥ 251, 200 を寄附 8月
	竹内 良子 9回卒	S. 32. 4 千駄ヶ谷区民館	170	婦人と時局問題 原 四郎	
	竹内 / 清水	S. 33. 4 千駄ヶ谷区民館	133	二つの中国の女性達 高木 健史	支部名簿刊行 12月 ¥ 100 ( 広告有 )
	清水 りん 13回卒	S. 34. 4 日本青年会館	145	現代の婦人問題 三井 為友	
	"	S. 35. 4 日本青年会館	127	此の頃感じている事 村岡 花子	音楽と語り 中村メイ子、神津善行
	"	S. 36. 4 日本青年会館	183	日本人 平林たい子	支部名簿刊行 12月 ¥ 100 ( 広告有 ) 母校教員住宅建設資金として、¥ 10, 000 を寄附 6月
	清水 / 矢島	S. 37. 4 日本青年会館	156	生活に於ける新しい秩序 今 和次郎	
	矢島 多勢子 14回卒	S. 38. 4 日本青年会館	124	子供の心の衛生 鱒崎 轍	母校体育館、同窓会館建設費寄附の依頼あり、協力を決定す。1口2, 000円、当支部の目標額¥ 500, 000 とする。
	矢島 / 金子	S. 39. 5 東京観光ホテル	154	林芙美子女史の裏話 平林たい子	話 阿部進 オリンピックにより、日本青年館使用不可。
	金子 章子 17回卒	S. 40. 5 東京観光ホテル	116	西条八十先生 加藤 武	支部名簿刊行 12月 ( 広告有 )
	金子 / 小幡	S. 41. 5 日本青年会館	140	秋山ちえ子 荒木 道子	
	小幡 恵美子 20回卒	S. 42. 5 日本青年会館	105	奥野信太郎 小沢 昭一	母校創立60周年記念祝典 9月

年号	支部長	総会期日 # 場所	出席 者数	演題・講師	参 考 記 録
昭和	小幡 恵美子 20回卒	S. 43. 5 日本青年会館	137	親子のきずな 白石 浩一	支部名簿刊行 12月 ¥ 200 ( 広告有 ) 同窓会館建設案廃棄決定となる。当支部募集 金合計 ¥ 642, 800
	小幡 / 北沢	S. 44. 5 日本青年会館	148	雑 感 加藤 武	総会をパーティ形式にこころみる。
	北沢 やよ 21回卒	S. 45. 5 日本青年会館	108	平岩 弓枝	東京支部会則の協議始まる 制定 5月
	北沢 / 小口	S. 46. 5 日本青年会館	111	話し方教室 金井 良子	支部名簿刊行 12月 ¥ 200 広告代は前回は準ずる。
	小口 房子 22回卒	S. 47. 5 日本青年会館	153	小尾 虎雄	
	小口 / 米山	S. 48. 5 日本青年会館	125	諏訪の自然と詩 三井 為友	
	米山 八千代 23回卒	S. 49. 5 日本青年会館	163	阿木 翁助	
	米山 / 石田	S. 50. 5 日本青年会館	174	日本人の生活と智恵 樋口 清之	会則補足
	石田 正子 24回卒	S. 51. 5 日本青年会館	149	赤穂義士アラカルト 神田 小山陽	
	石田 / 小平	S. 52. 5 三会堂ビル	136	新聞の読み方 辻本 明	母校創立70周年祝典 祝金 ¥ 100, 000 支部維持費から
	小平 嘉子 25回卒	S. 53. 5 三会堂ビル	156	野麦峠からみた今の 生活 山本 茂実	支部募集金 ¥ 500, 000 を名簿基金とする ( 定額郵便貯金 )
	"	S. 54. 5 日本青年会館	147	女の生きがい 田中 澄江	
	"	S. 55. 6 日本青年会館	194	人間関係をよくする には 深沢 道子	維持費 ¥ 500 を ¥ 1, 000 に…の値上げ案出る
	"	S. 56. 6 日本青年会館	220	言葉と人間関係 八木 治郎	
	"	S. 57. 6 日本青年会館	224	曲り角に来た女の生 き方 近藤 富枝	
	"	S. 58. 6 日本青年会館	238	生涯教育を考える 西村 秀俊	維持費 ¥ 1, 000 に値上げ決る ( 内 300 円本部 )
	"	S. 59. 6 日本青年会館	260	いのちを大切に 芹沢 光治朗	
	小平 / 小口	S. 60. 5 日本青年会館	236	諏訪の地震と東京の 地震 諏訪 彰	
小口 方子 30回卒	S. 61. 6 日本青年会館	272	現代教育の問題点に ついて 辰見俊夫	支部名簿刊行 3月 ¥ 500	
"	S. 62. 5 日本青年会館	258	こころと技術革新 木村 浩美	本部分簿刊行 2月 母校創立80周年記念祝典 10月	
小口 / 青木	S. 63. 6 日本青年会館	213	健康と食生活 茅野 和	講演会開催「生きる」 藤原てい高女 27回卒 ( 2 / 27 ( 土 ) )	
平成	青木 武子 36回卒	H. 元. 5 日本青年会館	260	人生八十年時代の経 済学 高原須美子	郵便振替口座設定。本部終身会費制度決定。 支部維持費 ¥ 1, 000 ( 平成 2 年度から ) 東京支部のあゆみ 発行

後記 諸先生、先輩の方々の記録を基に、支部らしくまとめました。不備の点はお許し下さい。  
前副支部長 河西 八重 ( 高女 36回 )

「大喪の礼」に参列して

作家 藤原 てい  
(高女27回)



その日、朝から激しく氷雨が降っていた。今日は、「大喪の礼」の日である。私は寒さにふるえながら集合所に指定された総理府へ急いだ。「車を使得ってはいけない」の言葉にしたがって招かれた人達は、ずぶぬれになって集まって来

た。黒のアフターヌードレスの裾がコートの下で足にまわりつく。持参の傘は取り上げられて、ビニールの透明の傘が渡された。参列者の姿が見易いためか、それとも持ち物を警戒するためか、降りしきる雨の中を、砂利を踏みしめながら、参会者の列は長く長くつづいている。一メートルおきに並んだ警官は、表情一つ動かさない、直立不動の姿である。頬を雨が

つたい衿首の中へしみ込んでゆく。「ごくろうさまです」私は小さく声をかけてみた。むろん返事はない。おそらく身体はふるえているだろう、と思った時に、突然に、昔々、私の村から戦争に連れて行かれた彌平の姿を思い出した。彌平が発する日も、このように氷雨が降っていた。

「清水彌平、これから出発いたします」勇ましいはずの挨拶の言葉がふるえていた。雨の冷めたさからか、戦地へ向う驚怖か彌平は、私の小学校の同級生である。いたずら仲間で木登りが上手だった。「死ぬなよ」

二十二才の私は彌平に近づ

いて、声をかけた。返事はなかった。その彌平が、一年もたたないうちに、白木の箱に収まって帰って来た。「彌平のバカ、バカ」

私は声を上げて泣いた。

今、眼の前の警官と彌平の姿とが重なった。年令が同じぐらいのせいとか、それとも冷雨が降っているからだろうか。うながされて、式場へ入った。テントの屋根があるだけで、四方、吹きさらしである。雨は容赦なくおそいかかって来る。借りたひざ掛けで肩を

掩って、身をちぢめている。唇が、わなわなと、ふるえ出した。突然に号砲が鳴りひびいて、その音に、新宿御苑に雨やどりをしていたらしいカラス共が、さわぎ立てた。

神官達に守られて、菟花輦が入って来た。「全員起立して下さい、黙禱」

わだちのきしむ音が、氷雨の音にまじる。その時、なぜか終戦を告げた時の昭和天皇のお姿だけが頭の中を去来して、突然に涙があふれて来た。「すべての責任は自分にあ

る」 とのお言葉。あのいたいたしいお姿。「着席」の言葉を私は遠くの方で聞いたように思う。たれ下がった紫色のカーテンの向こう側では神事がはじまったらしく、神官の声だけがひびく。しかし、その様子は知るすべもない。遠来の客である外国の高官達も、時々首を動かして、カーテンの奥をのぞき見ようとするのだが、すべてむなししい。なぜこの神事を見せて上げないのだろうか。たしかに政教分離のため。まえは守らなくてはなるまい。しかし、今、その奥で行われている行事は一種の、日本のように古い歴史を持つ国の重要文化財ではないだろうか。この機会にその文化財を見せ

てあげられないのだろうか。「日本にはこんなにはばらしい文化財があるのですよ、さあごらん下さい」と。それが、心のこもった外交であって、どんな大ホテルのレセプションよりも、すばらしいプレゼントになるにちがいないのに。そう思った時に、おそろしい空腹におそわれた。朝食を

午前五時にすませて、今、午後二時近い。その間、文字通り、飲まず、食わずで、ただ、ただ、ふるえ続けている。やっとカーテンがあいた。みんな背のびをするようにその奥を見た。ただ広い冷えびえとした空間があるだけ。さきほどの行事に使ったものはすべて、消えてしまっていた。昇殿、礼拝がはじまった。次々に、云わば世界中の指導者の方々が段上に上ってゆく。私達は、ただ遠くで、眺めているだけ。そしてすべてが終わった。一同起立。

お車が、砂利の音をききまわして、武蔵陵墓地へとむかわれた。「さあゆつくりとお休みになして下さい。長い長い間、御苦勞な人生をお歩きになったのですもの」

あたかも近所のおじいさんと呼びかけるように私はつぶやいた。なぜか、彌平のやさしい笑顔がふと浮かんできた。そして熱いものがこみ上げてきた。

参列者氏名の中に先生の名前を拜見して以来、御寄稿載けたらと思っておりました。有難うございました。(青木)

# 座談会

## 歴代支部長をお迎えして

日時 平成元年十一月三十日  
場所 東洋軒

### 出席者(敬称略)

7 回支部長 小幡恵巢子  
11 回支部長 石田 正子  
12 回副支部長 名川 愛  
13 回支部長 小口 方子  
現支部長 青木 武子  
現副支部長 清水 保子

出席してもらい、手となり足となつて私を助けてくれました。まだきちんとした組織も無くて、海沼先生が記録をとって、三井、宮先生も深く関わって助けて下さったお陰で支部長がやれました。私もまだ若く張り切つて動きました。

清水 お忙しい処ようこそおいで戴きました。気楽な気持ちで話し合つて下さい。現支部長から一言あいさつをどうぞ。

石田 私の時に規約を作りました。会長一人、副二人、書記二人で、副をやつたら会長になると言う規約で、会長からみてそれぞれの役に適した人、意欲のある人を選んで決めたのです。

青木 歴代の支部長のご苦労により組織もきちんとしていて大変立派だと思えます。平成と年号も改まりましたので記録をまとめてみたいと考えまして、その中に歴代の支部長のお話も載せたいと思ってお集りいただきました。

青木 はっきりした会則は北沢さんの時出来たとか。石田 それを修正したのです。海沼先生が献身的にやつて下さつた。又初代横山さんから

また欠席の清水琳子様、矢島多勢子様、金子童子様から宜敷くとの事でございます。◆心に残っていること

の会長だけの会もあり、一八回まで清水さん(四回)を中心にとまり、会長会を経て幹事会にかけた。会長会の帰りに駅のホームで長い話合つたりして、結局は顧問の人の意見に従いました。総会には最前列に顧問がずらりと並んだものです。

小幡 色々ありました。が夢中でした。総会には赤ちゃん連れて、よいかから大勢集まつて欲しかった。私の学年は全員

と並んだものです。また会長は他の役員を自宅に招き、よろしくと手料理でもてなしました。私も小口さんに呼ばれたので、自分の時も呼びました。親分子分のよ

うな親しい気持で代々引継がれて、総会には学年の全員連れてくるように、それが盛会につながるからと先輩からのお達しでしたよ。諏訪の人は我こそはと言う気持を持っていて、そこから又選ばれた人だという誇りを持つ、それが二葉魂だと思ふ。代々申し継ぎで二葉魂を忘れないでもらいたいですね。

名川 私は小平さんの時の副支部長で今日は代理で来ました。私は30年両親の面倒を見て家から出られなかった。二人を送つてから総会に初めて出て、こんなに楽しいものかと思ひました。小平さんは人徳もあり、そこに魅かれて幹事となり会計・副支部長をやりました。小平さんの自宅で役員会をやり、かんでんゼリ、ママの煮付などなつかしく思い出します。皆仲良くやっていて総会も喜んで集まりました。タイムカプセルから出た様な私は諏訪高女の良さを改めて思い楽しくて仕方な

かった。講演会も若い人には非聴いてもらいたいですね。青木 小平さんは永くやられて、次の支部長を引き受ける人がなく大変なようでした。名川 私も支部長までは出来ませんでしたが、小平さんは熱意と行動力、統率力もあり適任の人でした。小幡 北沢やよ子さんがすぐ亡くなったので、その間が空間があつたのです。青木 支部長は良くやつて当り前うまくゆかないと非難されるもので、困りで盛り上げるとしての東洋軒(金子さん高女17回)の存在は大きいのですよ。四、五人から三〇〇人の集まりまで受け入れて下さる。小口 私は小平さんの後を受けました。自分の仕事を持ち同窓会など出席した事もなかった。妹さんと同級であったりして小平さんと副の方が自宅に来て、健康上の理由から限度だからつなぎでもよいから東京支部の灯を消さないようにと頼まれました。自宅

親しく話が出来たり、先生方に總會通知を出すすと返信を戴いたり喜しい事もありました。尻込みしながら受けましたが三年も続けてしまいました。

◆役員交替はどのように

小口 三年目は交替するつもりでしたが32回の人に出てもらえず、会計から長になってもらおうと長副一新してしまおうので、青木さんに副を受けてもらいました。以前の決まりである副が長になるという事を伏せて頼むようになり、了解が得られず長になる事を拒まれたのです。

青木 私の時もそうでした。副として受けた後、電話で次

は長だと知らされました。石田 私の時は会計、副、長と六年やる事になっていました。やり易いよう替えればいいですよ。

青木 任期の問題で昨年皆さんの意見を採り入れ作った任期表をみて下さい。今後はこれに従ってやる事になります。石田 当分これでやり、各学年自覚を持って支部長を出してほしいものです。

◆総会・講演会の苦労

青木 若い人が増えている割には大学進学が増えた為か、支部会員が増えません。でも電話でお願いで幹事を受けてもらったり昨年度、今年度と増えています。

小口 名簿を作る段階で若い人が同窓会の存在を初めて知った人も多く、總會からクラス会に発展した学年もあると聞きました。

小幡 俳優の加藤武さん、奥野信太郎さんなどお願ひしましたが、高女の集まりだと、かえて緊張され、難しい話をして下さり不評でした。ユ一モアのある軽い話がいいですね。

名川 難しい話を聴きたい人もあり兼ね合いがむづかしい。◆本分会費・支部会費

小幡 80才になるので維持費は出さなくて良いかと言う人もいますがどうですか。

青木 10回までの方は免除、20回までの方はご自由にという事です(終身会費の場合)。

總會の会費は四千元で何年も据置きのままです。維持会費からの補助が大きく、繰越

解頂く方々が頑張つてと言つて下さり嬉しいですが。また本部から会報発行に際し五万円

の補助を戴きました。石田 三千元で終身出さなくて大丈夫でしょうか。

小幡 若い方は終身会費三千元と支部会費千円に抵抗があるようですが、支部会費千円は必要の金額だと思います。

私達の時は役員会も会費制で開き、雑費も全部自分持ちでやったものです。

小口 支部長はお金と暇と名声が無いと出来ないと言うのでは困ります。先輩が二葉を出た人なら誰でも出来るような基礎を作つて下さつてあります。

青木 現在千人は維持費を納めてもらっています。主に学年毎にまとめて下さるのできちんと集まっているのだと思います。

清水 平成二年度から支部会費千円として下さつたのは私達のためと感謝しています。

小幡 本部と支部の話に区切りをつけ、混乱しないようにして欲しいと思います。小口 今年の幹事会に出席して感じた事は、初めて出席した人は役員の話が理解出来なく雑談になります。煮詰めた



話であつても一般の人に理解出来るよう話した方がよいと思います。

石田 徹底したい事柄はプリントにして持ち帰れるようにしたらどうですか。

青木 それは良いですね。清水 副から長への引継ぎはやはりある程度の時間が必要であると実感しています。

小幡 役を受けると経済的・時間的に大変ですが、人間的に得るものはあると思います。健康で人の為に何か出来る事は、自分にプラスであり幸せな事だと思えます。また、人に見られる事は人生の華で美しくなれる事です。

小口 全然知らなかった人と知り合いになれる。これは戴きものであると思えます。

清水 長時間にわたり貴重なお話しをありがとうございます。

十一月末の午後の一とき、東洋軒の一室で、当手を振り返りお話を戴きました。

同窓会の為に一生懸命尽くされた様子伺い、欠席された方も含め先輩の方々のお陰で現在の在る事がわかりました。

紙面の都合上一部割愛させて頂きました。(文責・太田)

歴代支部長

- 1回 故横山 芳枝(高女6回)
- 2回 故片倉かず子(高女8回)
- 3回 竹内 良子(高女9回)
- 4回 清水 琳子(高女13回)
- 5回 矢島多勢子(高女14回)
- 6回 金子 章子(高女17回)
- 7回 小幡恵美子(高女20回)
- 8回 故北沢やよ子(高女21回)
- 9回 故小口 房子(高女22回)
- 10回 故米山八千代(高女23回)
- 11回 石田 正子(高女24回)
- 12回 小平 嘉子(高女25回)
- 13回 小口 方子(高女30回)
- 14回 青木 武子(高女36回)



# 白樺だより

## 教えを胸に八十年

(高女19回) 北沢 かづ

私共は昭和二年に卒業、平成二年に八十才になります。振り返りますと坂の上のコースト一面しかなかった女学校の四年間は若さあふれた輝かしい日々でした。卒業の時三村校長が「今迄教わった事は忘れていい。これから如何に生きるかをしっかりと考える事」と言われました。よしどんな

## 所感

(高女26回) 小山 志げ

長年購読している「婦人公論」の写真ページ「昔のなかな」で母校の同窓生五人の方をみつけた喜びは忘れられません。まなびやを出てから半世紀以上たち、人生の終着駅も見えかくれする年代になりました。私たち同期の東京支部会員は三十数名、春のクラス会には毎回半数は集まります。会えば昔の女学生にかえ

困難にぶつかっても克服していきこうという気持ちになりました。昭和十六年開戦、二十年終戦、戦後金持になったと言われる日本の、上に厚く下に薄い今の政治の有り方に、私共は賢く対処せねばならぬと思つて居ります。

支部総会で講師をお招しになるお話聞き皆様とお逢出来るこの会、二五〇名も集まる事は当然に思われます。今後出来る限り出席いたします。

り、諏訪ことばでおしゃべりの花が咲き、笑い声が絶えません。ふるさとの思い出はいつても暖かく、なつかしく、老いを忘れさせてくれます。生きることは辛いことも多く、半世紀の人生はそれぞれ千差万別で越えてきた道は平坦ばかりではなかったでしょう。ふり返ると二葉で学んだ年月は、そこだけほのかに明るく、輝いているように思われます。

女の時代と言われ、女性の

## ボランティア

(高校3回) 青木 恭子

「誕生」という言葉は、何事につけてもうれしいものでございます。此の度は会報の初出版、誠におめでとう存じます。会員の皆様への心づなになりますことを願ひ上げます。

卒業して早四十年近くの歳月が過ぎました。石垣にそつて立つ白樺を眺めながら学んだ音楽室はもうありませんが、現在の私の境遇は、そこから生まれたと云つても過言ではありません。音楽家を志して上京し、何とか人様の前で歌えるようになりましても芸術に終止符はございません。子育てに追われた日々は歌どころではなかったのですが、手が離れますとやはり心の底では「歌いたい」という気持ちが吹き出しそうになりました。たまたま近所の方が、大きな声で歌いたいけれど一人では恥しい等と云われたのを伺い社会進出が当然とされるよい世の中になりました。二葉で培われた精神をバックボーンに積極的に社会参加してゆきましょう。

## 二葉は私のバックボーン

(高校5回) 入来院貞子

「そうだ、私が一緒に歌ってあげれば……」と、現在六回目を迎えた「ばらの実会」と云うなつかしい・たのしい・思い出の曲を皆さんと一緒に歌うボランティアの会が出来たのです。学生時代の友人達も快よくお手伝いをして下さり、所沢の片隅でクラシック音楽をきいていたいております。勉強した事が、ささやかですが地方文化のお役に立

一九八九年。昭和の終焉とともに世界は激動の渦となり、私達は大きな歴史の節目を体験しています。終戦の混乱から現在の繁栄、そして新しい世紀へ向けての胎動。昭和一ケタの終りに生れた私達世代の意義を感じさせられるこの頃です。

終戦の翌年最後の諏訪高女に入学した私は、休学した為最初の新制中学からの入学生と共に卒業、七年も二葉ヶ丘に通った数少ない一人です。その後二葉最初の早稲田大学生となり、学生結婚、長男を抱えての卒業。個性豊かな五

ては大変うれしゅうございます。恩師へのご恩や、各方面の方々のご支援が、このような形で社会にお返し出来ますことを心から感謝いたします。声の出る限り歌い続けたいと願っております。拙ない文を創刊号に載せていただき、厚く御礼申し上げますと共に、諏訪二葉高校のご発展をお祈りいたします。

人の子持ちとなり近々五人目の孫が生れる予定ですが、現在なお第一線のコンピュータSEとして頑張っています。忙しくてものびのびと働け続けられたのは夫の懐の深さと身近な人々の理解の賜に他なりません。加えて諏訪の進取の気風と、二葉支部会で披瀝される先輩達の飽くなき向上心に触発された気概に支えられています。

## 物故者

平成元年6月	末	中山殿先生
客員	35回	高女
高女	35回	小尾政子
"	10回	角重子
"	16回	松原普子
"	34回	武井辰子
高校	13回	三沢ゆたか
"	13回	小林登喜

# 作品

## モスクワにて

(高女21回) 倉持 ひろ

モスクワ駅の「赤い矢号」の夜中出発北斗七星みつめていたり

童話めく塔並びたつ「赤の広場」古塔に大き時計鳴り出す

交替兵来てレニン廟守りいし二人の兵士向きを変えたり

蹴めしと思いいし赤の広場にてビートの赤きスープに

親しむ

レニングレード指せる列車の宵の時人種人語は混じり

和めり

## 秋に寄せて

(高女14回) 小島 と志

故郷の山羊の好みし草茂り横浜の空夕焼小焼け

木犀の花の散り敷く庭に立てば百舌鳴き渡り空牙えわたる

秋一番の寒さとなりて故郷は初氷はるとラジオは伝う

穏やかな秋を土産に帰りたし冬仕度せわしき信濃の里に

吾子らにはおふくろの味となるかしらクワッサン焼く

日曜日の朝

## 傘の雪

(高女29回) 塩谷きみよ

信濃路は曇と変る傘の雪

しばらくは形と遊びトマト剪る

身に纏ふもの捨てゆけり紅葉山

一言を押へて薔薇の豊かなり

身の内の炎が揺らぐ岩清水

## 白樺の風

(高女32回) 千葉 敏江

同級会の幹事として、この

五月、東京支部同窓会の総会

に出席、すでに会の運営は私

共より若い方々。スピーディ

に進行されて好ましい雰囲気

この度の支部会報発行の計画

も宜なるかなと思う。

校門迄のあの長い坂を苦も

なく登り切った少女の頃、自

分達に「老」のあることなど

考えてもみななかった。この歳

月、母校の変遷は著しい。若

い方々を先達に発展の一途を

往く喜び。

その余風を得て十月二十七日、私共同級会も大いに若さを発揮。御岳溪流沿いの散策を試みた。参加者二十数名。

多摩川沿いの遊歩道を、それも起伏のある山沿いを選んだ方も多く、まだまだの若さを確めたことである。玉堂美術館・ままごとやの懐石料理を

楽しんだ。無理かなと思つた英治記念館等にも歩を伸ばし、充実した一日であった。

菊酒に健やか祝すクラス会

としえ

最後に母校及びこの会報の益々の発展を祈つて。

## 奇しき巡り合わせ

(高女37回) 西田みどり

私達五人はたまたま今年クラス会の幹事を引き受けましたので、先頃今迄の記録を引き継いで何となく眺めて居りました。すると第一回クラス

会は二十六年前に何と日本青年館で、しかも今年度と殆んど同じ顔ぶれの幹事でやって

いた事を発見しました。他の人はとも角、私は殆んど忘れて

ていました。

肝いり役が小川さち子さん

昭和三十八年の春、子育ても一段落した頃同窓会という

ものに出てみようかという気分になつて私は出席しました。

そこに同級生が何人かいて再会を喜び、東京在住の人も多

勢いる事だしこの際新しく東京のクラス会を持つとうという

事になりました。早速皆に呼び掛けたところ一ヶ月後二十

四人が集まりました。その時の案内状は茶色に変色して

ますが、確に発起人として今の三人の名前が印刷されています。昼食付きで会費は五百

円、葉書代は五円です。愉快な文面は次の様です。

「……………先日在京の同窓会に出席しまして先生方や幾

ちゃん、葉ちゃんなどにお逢

してなつかしさの余りになん

とかクラス会を開きたいとい

う事になり学校時代、作文は

苦手でしたが筆をとり、日頃

のやりくりの腕に物を言わせ

て会場の交渉も致しました。

どうぞ御子様も御一緒にふる

つて御出席下さいませ。なつ

かしい諏訪言葉で肩をたたいて話合おうと四、五才は若返り

ますし又思ひもかけない収穫

もあるものでございます。至

急お返事を下さいませ。」

今年はたまたま東京支部の沿革史が誕生することになり

ました。同窓会に出席した事

がきっかけとなつて私達の学

年のクラス会が誕生した事を

思い合せて感慨に浸つて居り

ます。

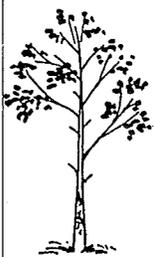
それからクラス会は二十回

を数えて居ります。これから

の同窓会も皆様の良き出逢い

の場となります様に切に念願

して居ります。



## クラス会の回想

(高女33回) 有賀 栄子  
小原あきら

ふじ紫の山らつきょうの花を見つめ乍らの長電話。会報発行について同級生の方々がアドバイスを頂く。同窓会出席の折クラス会をしようとの声が、あがり河野さん木川さん米沢さん方のご尽力により

## 学年トピックス

昭和二十九年頃主婦会館で第一回目が成立する。四十七年頃上諏訪のホテルで東京と諏訪の合同の会が持たれた。亡き鮎沢重治先生をご招待し約五十名出席した。五十五年頃ニューオータニで寺島先生の歌集出版記念祝賀会を開く。附

会。先生お手作りのわらびと若芽のお酢の物のお味は格別であった。クラス会に見る友の心のぬくもりや楽しい語らひは、一服の清涼剤となる事でしょう。

## 年に一度の 楽しいつどい

(高女35回) 花村 澄江  
伊藤 栞  
竹中みつる

最も恵まれなかった時代の私達にとって、クラス会は、幸せを強く感じるひと時です。時折なつかしい諏訪言葉もとび出したりして、あどけないセーラー服姿で二葉ヶ丘に学んだあの頃を語り合う目と目は乙女時代に戻ります。恩師の三井為友先生におい出いただき貴重なお話をお伺いする事もあります。この様に、心暖まる友情を確めあう場となつている私達のクラス会は、卒業十三年目に生まれ、今年で三十六回持たれました。榎本みな子さんと小山恒子さんが発起人となり種々とお世話を下さつたおかげです。記念写真をはったアルバムを次々と当番に引き継いでいますので、出席できなかつた時

## 二十八年目の同期会

(高校13回) 金子 泰子

今年の秋に是非同期会をという話が決まったのは、同窓会東京支部総会の時でした。その後、期日の決定や会場の選定、案内の発送等で幹事三人が何ん回か集り、そして十

の様子を知る事ができて心なごみます。心ゆく迄語り合、又、友の一言が、これからの生活に役立つ場合が多々有ります。故人になられた方々の面影をしのびながら、この会が、益々発展して行く様にみんまで育てていきたいと願っています。

## 「団塊の旗手」

達から

(高校18回) 田雑 房子

諏訪の空は高く青く、二葉丘は美しく紅葉し校舎が陽に映えて、今も二十数年前の景色が目の前に現れます。私達高校十八回生は「団塊世代」の旗手で、何に關しても常に高い倍率の中を四十を二つ越える年となりました。

昨年幹事を引受け、青木支部長を始め沢山の先輩の皆様「一年を重ねたらあなりの感激が高まり同級会開催にまで発展しました。昭和最後の同級会は十一月に渋谷で三十一人の参加でした。(百五名の在任者中、七十三名の返信有り)大根坂を登り降りした二葉生も主婦の他に教育・経済・

方は全員来て下さり、感激してしまいました。

近況報告をしながら一人ずつにスピーチをして頂きました。十八才の少女の顔がだんだんに戻ってくるようでした。三時間余があつたという間に過ぎて、それでもまだ別れ難い気持ちでしたが、是非又、と再会を約して散会致しました。

実業に活躍されており、白き翼をしっかりと羽撃かせて日本を支えている様子でした。学校教育の乱れが伝えられる中、二葉で授けた信濃教育を社会に、教育現場に、家庭にと役立てて行きたい気持や良い友に出会えた喜びで一杯でした。平成に改まり、それぞれの翼に新しい磨きがかけられているのでしよう。ごきげんよう。

## 今年のクラス会

(高女19回) 長田 あさ

今年のクラス会に十七人集り内十六人が未亡人という年代に入りました。各々の想いの中でたえて居られる方々、ご主人の歌集を編まれた方も居られます。どうぞ皆さんご健康で。



三井先生の録音をお聴きする会  
昭和二十九年十一月三日  
録音 伊藤 栞

# わが八葉会

(高校8回) 高木美保子

八葉会とは見てお分かりのように入回卒業生の同期会の名称でございます。

初めての会を開きましたのは高校を卒業して十年目でした。その当時、私を含め花の独身者の気楽な仲間が時々集まり、お酒ならぬコーヒーを飲んでおしゃべりを楽しんでいたので、いっその輪をもっと広げようということになり、名簿作りから始めて師走を迎えた頃に第一回目を開きました。目白駅近くの東京都教職員施設「うずら荘」という古びた民家風の二部屋でした。小さな子供連れが多く、玉子丼をとり、みかん、袋菓子や途中を買ってというほほえましい程素朴な会が何年か続きました。それがよかつたのか今でも派手さはなく堅実に続いております。そのうち諏訪の方でも開きたいということになり、卒業二十周年から一泊するようになり、今年の会は五月末に山梨県石和でした。この頃では初孫が生れた方々もあり、会を開く度に各地の幹事が旧交を温め、おつき合

いの輪が大きくなって参加するのを楽しみにする人がふえてきて何よりだと喜んでおります。

## 手作りクラス会

(高校1回) 宮崎 玲子

戦中派の私達の卒業年度はややこしい。昭和十八年に入學、二十二年に四年卒、二十三年に五年卒、二十四年では高校第一回卒となる。その間に多くの疎開者が編入して、又去り、戦争は地元の方々さえ移動させた。私も疎開の転入で生粋の諏訪っ子ではないけれど、農村の勤勞奉仕や工場勤務も含めて、密度の濃い思い出で一杯である。

卒業後のある日岩波厚代さんと在京の級会を思い立った。丁度結婚適齢期で移動が激しいため、級友に実家に再度問合わせ、案内も一枚ずつ手書きであった。費用のために不参加を懸念して、会費は五十円、会場は私宅、当日は早朝から二人でサンドイッチを手作りしただけの質素な会であったけれど、子連れや妊婦も混えて盛会であった。三十五年前のことである。其の後跡絶えたこともあったけれど、

## 同窓会総会に出席して

(高校19回) 関沢喜久子

卒業して二十二年が経ちました。二年前に、総会の通知を頂きどんな会かと出席しました。約三百名の出席と、大正の時代より続いているというお話を聞いてびっくりしました。現在活躍なさっている同窓生や知識人の講演を企画され、プライドを持って会を運営なさっていらっしゃる様子がとても良く感じられました。高原須美子女史(現経済

## 始めてのクラス会

(高校22回) 荒井 勝枝

諏訪二葉を巣立ってはや九年。あの大根坂を友と語りいながら通った日々が、ついこの間のように思われるのですが、確実に年月は過ぎ去っているのです。実家が高遠というところもあり、卒業以来母校へ足を運んだこともなく、ただただ自然豊かな信州と、自主自立の精神を大切に育つ

白樺会として皆様が引継いで下さり、そろそろ私達は赤いお洋服の年頃が近づいている。

企画庁長官)の老いと消費税の係わりのお話も、この同窓会だから聞けたのだと、役員の皆様には感謝いたします。

私達十九回卒も、刺激を受けて、第一回同期会を開きました。次回の幹事を決め、子供の学校の事、子育ての事等話し合い楽しく過ごしました。

夫旅に出でし今宵は子ら二人吾のとなりになど並べて眠る

庭に鳴くうぐひすの声録音し夫に聞かせる子は浮きうきと(主人を中心に、潤いのある家庭をと思つていきます。)

た母校を恋しく思う日々でした。ところが、夏休みに霧ヶ峰高原へ三人の子どもを連れて行く機会があり、ドライブの弟に母校を経由してくれるように頼んだのです。ヒマラヤ杉の奥に立つ校舎は一段と誇り高く感じられました。ところで私達高校二十二回

卒業生は、子育て真最中の人も多く集まる機会もなかったのですが、幹事の五味さんの計らいで、七月十六日、高島平団地の集会所で初めての同期会を持ちました。わずか五人の出席でしたが、十九年間の空白は感じられず、尽きる

このない話に花が咲いた一日でした。母校と同窓会のみますますのご発展を念じつつ：

## 編集後記

▼初めての会報作りに参加したものの、どんな表情の紙面になるのか心配でした。次回はこうしようと言う訳には行きませんが。▼藤原先生・二木様始め関係の皆様が短い期間に原稿を書いて下さり、又、ご寄附のような広告を出して戴いた等のご協力、厚くお礼申し上げます。▼各学年のどなたかに係わって戴くよう心掛けましたが、限りある紙面故、登場しない学年もあります。▼作業の過程で、先輩、後輩の方々と親しくお話できた事、委員の皆さんとの絆が強まった事等喜しいこともありました。▼多くの方々に隅から隅まで読んで戴ければ幸いです。

### 編集委員

- 青木 武子 高女36回
- 清水 保子 高女38回
- 横内 栄子 高女38回
- 小林しげ子 高校2回
- 矢部喜久子 高校2回
- 太田 康子 高校7回
- 久保田繁子 高校7回
- 吉田 敬子 高校7回

(順不同)

パーツリーダー製作  
三興精密株式会社

杉並区和田3-61-9

TEL 03(317)3511(代)

高女22回 美崎 裕子  
旧姓(名取)

株式会社 東洋軒

金子 頼子

新宿区霞岳町15番地

TEL 03(475)2525

高女17回 金子 頼子  
旧姓(岩波)

二葉東京支部のため

頑張ってください

高女25回 沢田 みわ  
旧姓(加藤)

祝

東京支部のあゆみ

高女36回 河西 八重  
旧姓(小口)

(株) 矢崎海苔店

TEL 03(941)2503

FAX 03(942)8271

太陽と海が育てた自然食品  
のりを食卓へどうぞ……

高女34回 矢崎 花子

会報発行おめでとう

ございます

御発展を祈ります

高女32回卒一同  
高女38回卒一同

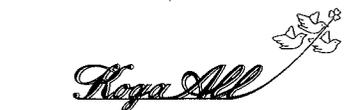
渡辺 医院

横浜市磯子区洋光台1-18-12

諏訪二葉東京支部

益々の発展を祈りあげます

高女38回 渡辺あさ子  
旧姓(山田)



◎ 古賀オール株式会社

TEL 03(666)1331(代)

高女36回 古畑 一子  
旧姓(樋口)

中台医院(内科)

医学博士 小川 一吉

板橋区常盤台2-3-18

TEL 03(966)9648

高女37回 小川さち子  
旧姓(植松)

話し方マナーズ

企業や団体において講演  
と訓練をしています

TEL 03(943)7780

高女38回 金井 良子  
旧姓(乾)

図書出版

株式会社 大和書房

文京区関口1-33-4

TEL 03(203)4511

高女38回 大和 たか  
旧姓(大和)

ラマーズ式自然分娩

広瀬助産院

八王子市本町9-2

TEL 0426(22)4873

高女38回 広瀬 綾子  
旧姓(宮坂)

御協力ありがとうございます  
ございます 今後共よろしく  
お願いいたします

高女38回 横内 栄子  
旧姓(増沢)

皆様の心からの御協  
力深く感謝申しあげ  
ます

高女36回 青木 武子  
旧姓(小川)

東京支部の発展に今  
後共御協力お願いし  
ます

高女38回 清水 保子  
旧姓(名取)